

# 野菜不足解消にパッケージサラダ

サラダクラブ（金子俊浩社長、本社：東京都調布市）は先月、オンライン記者発表会を開催し、年次調査「サラダ白書2022」と同社の取組みについて発表した。同白書は、サラダの食文化を把握することを目的に2010年から毎年実施しており、今回で13回目となり。対象は全国の20歳～69歳の男女2060人、期間は22年2月22日～24日。

\* \* \*

野菜不足を意識している割合は全体で63.5%、前年よりも約5ポイント増加した。男性よりも女性で割合が高く、特に女性30代～50代では7割を超える。コロナ下の健康意識の高まりが影響しているようだ。

野菜不足

（左）バターナッツは一般的なカボチャに比べ、デンプンが少なく水分が多い。味はあっさり

（右）サラダクラブ「ベジしゃぶ」（写真）は、サラダの食文化を把握することを目的に2010年から毎年実施しており、今回で13回目となり。対象は全国の20歳～69歳の男女2060人、期間は22年2月22日～24日。

の解消に利用したい商品上位には、「パッケージサラダ」（44.9%）、「野菜ジュース」（40.7%）、「出来合いのサラダ」（38.3%）が入った。前回までトップだった「野菜ジュース」を、今回「パッケージサラダ」が抜くかたちとなつた。

パッケージサラダの利用意向は53.3%と、13年以降最も高い数字を示した。男女ともに若年層ほど利用意向が高い傾向で、有職者や夫婦のみ世帯の割合も高い。

また今回の調査では、料理の工程で負担を感じる項目を尋ねる設問に、特徴的な結果がみられた。上位には「献立決めた」（55%）、「下処理」（53.9%）、「洗い物」（58.6%）、「生ごみの処理」（44%）、「生ごみの処理」（55%）、「下処理」（53.9%）が入り、調理工程よりも「献立決め」の割合が上回った。これを受けて同社では、ホームページや

での期間限定で、販売目

標は期間計30万パック。ハロウィンに向けたメニュー提案も行う。また、昨年発売した「やぶしやぶ用のカット野菜をリニユーアルし、「ベジしゃぶ」として9月14日から発売する。「白菜ミックス」（写真右、210g入り）、「白ねぎミックス」（100g入り）、「キャベツミックス」（215g入り）の3品で、参考価格は税込213円。人の手で切るのが難しい極薄カットのネギやハリネギ（白髪）

## 利用意向 野菜ジュース抜きトップへ

サラダ白書2022

（左）バターナッツ（写真）は、静岡県産のカボチャやミックス（写真左）を新発売する。105g入り（2～3人前）、税込213円。10月31日ま

